

改善方策	○生徒の目標達成を担保するには学力向上が必須となり、個々の生徒の状況に応じた指導方法の確立や、データ活用・分析に基づく効果的な進路指導を進める。 ○年内入試・一般入試の両立に向けて、本校生の強みである探究的な学びを活かした指導やセミナーなどによるハイレベルな教科指導を充実させる。	
保健安全	・定期的にサポート委員会を開催し、不登校生徒についての実態把握、情報共有、支援策の検討を行ってきた。次年度に向けて、実態を踏まえて学校としてどのような支援ができるかを具体的に提示できるようにする必要がある。	・不登校の生徒は、どの学校でも増えていると考えるが、学校の教育活動を通して、生徒の自己肯定感を高め、安心できる居心地の良い学校づくりを推進して欲しい。
改善方策	○学校行事において、PTAを中心とした生徒・保護者・学校が一体となった活力のある取組を行うことができるよう工夫する。 ○評価をとおした様々な取組の振り返りや学校全体の振り返りを行い、改善を実感できる方策に確実につながるようなサイクルを確立する。 ○学校HPによる積極的な情報発信により、地域・保護者が学校の教育活動への興味・関心を高めるようなコンテンツの充実を図る。	
対外・総務	・地域の小学生の減少に対して、生徒募集の在り方を工夫する必要がある。 ・昨年度と比較して、学校HPの閲覧数が1.5倍増えており、引き続き内容の充実を図る。	・保護者の授業参観や地域住民の学校行事への参加などにより学校の教育活動や生徒の素晴らしさを広めて欲しい。
改善方策	○学校祭の公開や保護者以外にも授業を公開するなど開かれた学校づくりに資する取組を充実させる。 ○様々なイベント等への参加を通じて、本校生徒の学びの様子や成長の様子を広く周知する。 ○学校HPによる情報発信のさらなる充実によって、地域・保護者が学校の「今」を知ることのできるコンテンツの拡充を図る。	
寄宿舎	・コロナ禍で寄宿舎での過ごし方に制限がある中、生徒同士の交流が希薄になっており、自主性や社会性を身に付けさせることをねらいとする望ましい集団づくりの取組を行う必要がある。	・親元を離れ生活している寄宿舎生に対するスクールカウンセラーの役割は大きい。ま寄宿舎内でのよりよい人間関係づくりに向けた取組を計画的に実施するとよい。
改善方策	○生徒がリーダーシップを発揮した異年齢交流などを積極的に実施する。 ○スクールカウンセラーの面談等を踏まえて、寄宿舎生徒に必要な指導や支援を教職員が組織的に行う。 ○寄宿舎生徒の学習習慣の確立に向けて丁寧な見守りを行う。	
運営全般	・「道内唯一の道立中等教育学校として、ここでしかできない教育ができていないか」について、保護者＞生徒＞教職員の順で、教職員の自己評価が低い結果となっていることから、改めて、「ここでしかできない教育」についての共通理解が必要である。	・「生徒を主語に」の教育活動を大切にし、生徒の好奇心を引き出し、教職員や地域との積極的な関わりにより、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めるような意識が必要ではないか。
改善方策	○教育の目標や育てる生徒像などを学校全体で共有し、「ここでしかできない教育」の理念を、「個々の教員の持ち味を活かすこと」と「個々の生徒の状況に応じた最適な学びを提供すること」の2つの視座に置き換え、教職員の一人一人が自信を持って本校の教育活動を担い、その成果や課題を積極的に発信していく。	
公表方法	・本校HP掲載 ・一斉メール配信等での周知 ・PTA総会等での資料説明	

3 添付資料

- (1) 自己評価書
- (2) 学校関係者評価書
- (3) 三者（教員・生徒・保護者）評価の結果